

障がい者制度改革

障害女性が抱える困難

性被害の実態など初の調査報告 法制度への反映めざす

障害のある女性たちの困難や生きづらさを見えるものにし、よつと「DPI女性障害者ネットワーク」が当事者への聞き取り調査と制度・政策の調査研究を行なった成果がこの春、1冊にまとまった。現在、内閣府障がい者制度改革推進会議の差別禁止部会で障害者差別禁止法について検討が行なわれており、障害女性固有の困難やニーズの聞き取りも実施された。当事者らはこの調査結果を基に、複合差別の実態や公的施策の不備について知ってほしいと訴えている。

「自分が障害女性として複合的な差別の中にあると言われたら、75人になった。でも、自分が家事・育児をどんなに頑張っても、当然のこと、夫はほめられたりかわいそうと言われる。このモヤモヤは自分だけじゃない、と分かってすぐ、調査票への回答と聞き取り調査に協力した神戸在住のFさんは視覚障害を持っていて、長年抱えてきたモヤモヤした気持ちは、自分だけではないと分かってうれしかった。

4月14日、東京で「障害のある女性の生活の困難 複合差別実態調査報告書」が完成したことに、ついで報告集会が開かれ、

「複合差別」を受ける 5月11日に開かれた障がい者制度改革推進会議差別禁止部会で障害女性複合差別についてのヒアリングが行なわれた。DPI女性ネットワークのメンバーが調査報告を基に来年の通常国会への提出が目標とされている「障害者差別禁止法案」に障害女



↑左からDPI女性障害者ネットワーク瀬山紀子さん、臼井久実子さん、南雲君江さん、米津知子さん、佐々木貞子さん。

性複合差別について盛り込んでも欲しいと訴えている。2歳の時に小児麻痺(まひ)になり障害が残った。障がい者福祉を専門とする加納恵子さん(関西大学)が複合差別の背景について説明した。「女性X(かける)障害というダブルハンディは、ただ単に二重ということではない。公害問題が起きた時に、複合汚染」という言葉がありました。一方、結婚や出産などをめぐって「女としての能力」が問われ、否定され

る。障害女性はこの社会にあるジェンダーバイアスや性差別の風にとさらされている(別項参照)。米津さんは「介助の場や福祉施設、病院など医療の場、職場や学校など、当事者が簡単には立ち去れない場所まで起きている。被害がどれほど深刻なものか想像してもらえ」と話す。

簡単に立ち去れない場所、障がい者は弱い立場に置かれがちになる。障害によって反響したり逃げることができない、加害者の顔を認識することができないなど、加害する側は彼女たちの弱みをよく知っている。

障がい女性ダブルバイ(二重拘束)に置かれて、第2次性徴以降、性的存在としてみなされ、性的暴力の被害に遭う。一方、結婚や出産などをめぐって「女としての能力」が問われ、否定され

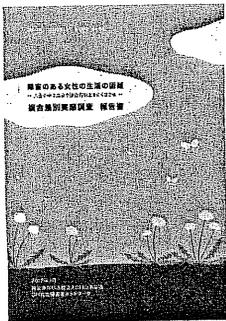
る。障害女性はこの社会にあるジェンダーバイアスや性差別の風にとさらされている(別項参照)。米津さんは「介助の場や福祉施設、病院など医療の場、職場や学校など、当事者が簡単には立ち去れない場所まで起きている。被害がどれほど深刻なものか想像してもらえ」と話す。

簡単に立ち去れない場所、障がい者は弱い立場に置かれがちになる。障害によって反響したり逃げることができない、加害者の顔を認識することができないなど、加害する側は彼女たちの弱みをよく知っている。

兄弟「人である」
結婚し「障がい者」
母「なう」
自分「こせ」と

<DPI女性障害者ネットワーク>

障害女性をつなぐネットワーク組織。1986年に障害女性の自立促進と優生保護法の撤廃を目指して発足。優生保護法の優生条項がなく母体保護法となった96年以降活動を休止していたが、07年のDPI(障害者インターナショナル)世界会議韓国大会以降、障害女性の世界的連帯の呼びかけにこたえる形で活動再開。昨年の東日本大震災の時には「フレット「あなたの避難所にこんな方があるなら」を作成、配布。障害のある被災者支援について積極的に提言した。



↑報告書は点字版、テキストデータ版あり。問合せはDPI女性障害者ネットワークeメール dpiwomen@gmail.com

月刊 社会民主

2012年6月号

絶賛発売中!

お申し込み・お問い合わせは
社会民主党全国連合機関紙宣伝局

〒100-8909 東京都千代田区永田町1-8-1
Tel.03-3592-7515 Fax.03-3581-3528
E-mail: kikanshisenden@sdp.or.jp
郵便振替 00140-1-3203

人権政策はどうあるべきか

今こそ基本的人権を生かしていく政治と活動が必要
求められる国内人権機関
ヘイト・クライム法はなぜ必要か
日本のジェンダー平等政策

北朝鮮の人工衛星打ち上げとミサイル防衛システム配備の失敗
第2次大戦市民空襲等被害者の救済を!

「政治を読み解く」③
原雅典断⑥ 「国民的意識」逸脱した法案作り
なんでも調査隊⑩ 少子化問題一離婚と未婚の増加

福島みずほ特別対談 加賀乙彦さん(作家・精神科医)
原子力は悪魔の科学。
科学は、この悪魔の領域へ向かうべきでない。など

定価 630円(本体価格 600円)
送料 76円

人権政策はどうあるべきか

今こそ基本的人権を生かしていく政治と活動が必要
求められる国内人権機関
ヘイト・クライム法はなぜ必要か
日本のジェンダー平等政策

北朝鮮の人工衛星打ち上げとミサイル防衛システム配備の失敗
第2次大戦市民空襲等被害者の救済を!

「政治を読み解く」③
原雅典断⑥ 「国民的意識」逸脱した法案作り
なんでも調査隊⑩ 少子化問題一離婚と未婚の増加

福島みずほ特別対談 加賀乙彦さん(作家・精神科医)
原子力は悪魔の科学。
科学は、この悪魔の領域へ向かうべきでない。など

定価 630円(本体価格 600円)
送料 76円

福島みずほ
寺中 誠
前田 朗
林 陽子
田窪雅文
城森 満
早野 透
西尾 漢
藤倉慎也

その他
情報満載!



① 新連載

ドキュメンタリー映画「シツパチの羽音と地球の回転」を撮り始めたのは2008年5月でした。最初のロケ地はスウェーデン。北欧、スカンジナビア半島を横半分に割った南側がスウェーデンです。南北に長いその北端、北極圏からシツパチの国境近くの南端まで駆け足で調査を兼ねての撮影。脱原発を国民投票で決め、かつ脱石油にも固くあけて取り組んでいるスウェーデン。そしてもう一つの現場が日本の瀬戸内海に浮かぶ祝島です。地球上の

かけ離れた二つの場所を舞台に映画は展開します。祝島の目の前にある小さな湾、田ノ浦には上関原発の建設が予定されていて、島民は08年時点で27年もの長きに渡って反対運動を継続してきています。「六ヶ所村ラプソディー」を作り始めたころ、映画が完成する前に私のエネルギーをどうするか、かかろうかと。私は1998年以来、12

発信するためのツール

年、核をテーマに映画を作ってきました。「ヒバクシャ」世界の終わりに、「六ヶ所村ラプソディー」と「シツパチの羽音と地球の回転」核を巡る三部作と呼

名づけたビデオレターです。これは問題をいち早く知ってもらおうという利点があります。映画は制作に何年もかかるとは、そのD.V.D.に上映権を付けた、小規模の上映会を開くように呼びかけました。「ぶんぶん」とは英語で言う「パスサウンド」。「ロコミ」の意です。マスメディアが扱わない重要なテーマを市民がロコミで広げる。発信するためのツールとしての映像を目指しました。

政治コラム

06年に国連で採択された「障害のある人の権利に関する条約」では第6条で「障害のある女性」について規定し、障害者の人権、基本的自由のためにジェンダーの視点を組み込む必要があることをきっちり掲げている。この「障害者権利条約」の批准に向けて国内法の整備を進めている日本では、障害女性に関する施策はどうなっているのか。D.P.I女性ネットは今回、都道府県の男女共同参画計画とD.V.防止計画の中で障害女性に関する記述の数を調査、比較した。D.V.防止計画の方が充実していたが、性別

複合差別の実態

「手や胸に触る痴漢行為をしばしば受ける。相手の顔を見てやれないのが悔しい」(60代、視覚障害)
「母の恋人からの性的虐待を受けた」(30代、肢体不自由)
「タクシードライバーが『美人なのに目が見えなくてかわいそうだ。女にしてやりてえ』と言いつつ、モーターに連れ込もうとした」(50代、視覚障害)
「近隣の人がレイプをされた」(60代、精神障害)
「寝ている間に家に強盗が入った。聞こえないのでわからず、馬乗りになられて気づいた」(20代、聴覚障害)
「いくつかの結婚相談所から入会を拒絶された」(40代、視覚障害)
「母親から『お前は足が悪いから結

被害者の証言

婚できないし、片輪の妹が結婚できないから家を出てらさなければいけない」と言(60代、肢体不自由)
「以前は母や周りから『早く子どもを産め』と言われた。持っていた言われなくなった。視覚障害 難病)
「生理が始まった中学生の親から『生理はなくてもいいの』と言われた。子宮を取意味だった(40代、肢体不自由)
「妊娠7ヵ月に入ってから両親に手紙で子どもが生まることを知らせて、夫の母からつもらか、すぐに始末する手紙が来た(60代、視覚障害)

ジェンダーの視点が重要

役割分業に基づいたもの、高齢者や一人親など、一括で扱われているなど、ジェンダーの視点は盛り込まれていない。調査、分析した一人、日井久美子さんは「D.V.被害を受けた聴覚障害女性が相談したくても電話相談しか設けていない」ところも多い。障害者であることも多い。障害者であることでD.V.相談の窓口を促される場合もあるが、地域の障害者団体が委託運営されている所が多く、情報もれや相談しにくい」と障害女性性が制度の谷間に取り残されているのではと危惧

わけではない。力を奪っているものを明らかにして、変えていきたい」と障害者差別と女性差別が結びついていることを真正面から捉え、その困難に対応する施策が求められる。D.P.I女性ネットは、国が行なう障害者の調査は性別集計を行なうこと、法・制度・施策の決定過程に障害女性が参画できるようにすること、教育を通して障害女性の自己尊重意識を高めること、就業率を高め経済・生活の自立を可能にするなどが必要だとしている。障害者たちが声を耳を傾け、当事者抜きに当事者のことを決めないようこの報告書を生かしていくべきだ。

まなぶ 2012増刊号 働くものと震災・復興 地域で「復旧・復興」を担う労働者。いま、私たちに問われていることは...

社会主義 6月号 定価600円(税込) 1年分12冊 6,040円 個人購読の場合は送料70円を要して下さい。

まなぶ 働くものの月刊学習誌 6月号 450円 半年分 3108円 7673円

進歩と改革 6月号 主筆 野田政博 編集 藤田久大